



(財)国際緑化推進センター  
COP17 報告会

ダーバン合意後の  
REDD+  
促進に向けて

一般社団法人  
コンサベーション・  
インターナショナル・  
ジャパン

CI 気候変動プログラム  
マネージャー  
山下 加夏

2012年1月16日

CONSERVATION  
INTERNATIONAL  
Japan

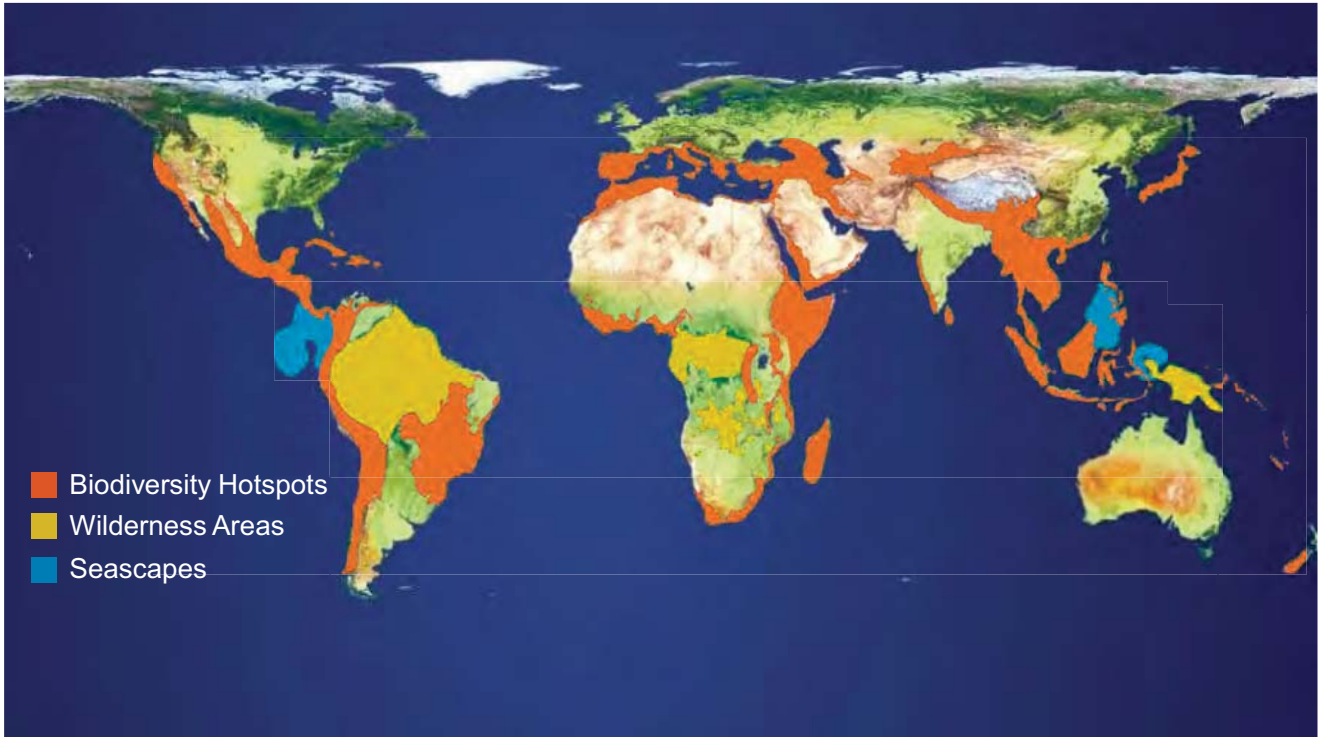


## 本日の発表内容

1. CIジャパン/CIのCOP17における活動目標
2. ダーバン合意へのCIの評価
3. CIサイドイベント報告

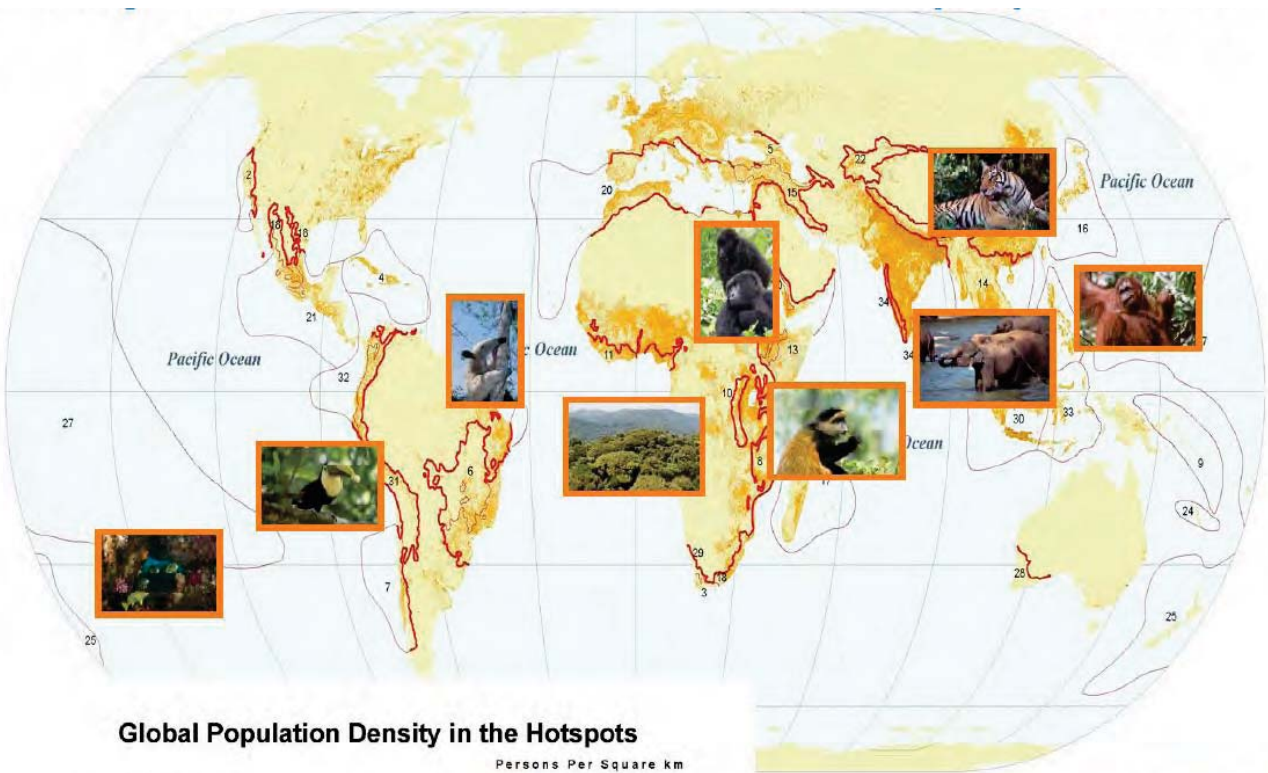


- CIのプライオリティ地域：
- 生物多様性ホットスポット
  - 熱帯原生自然地域
  - シースケープ



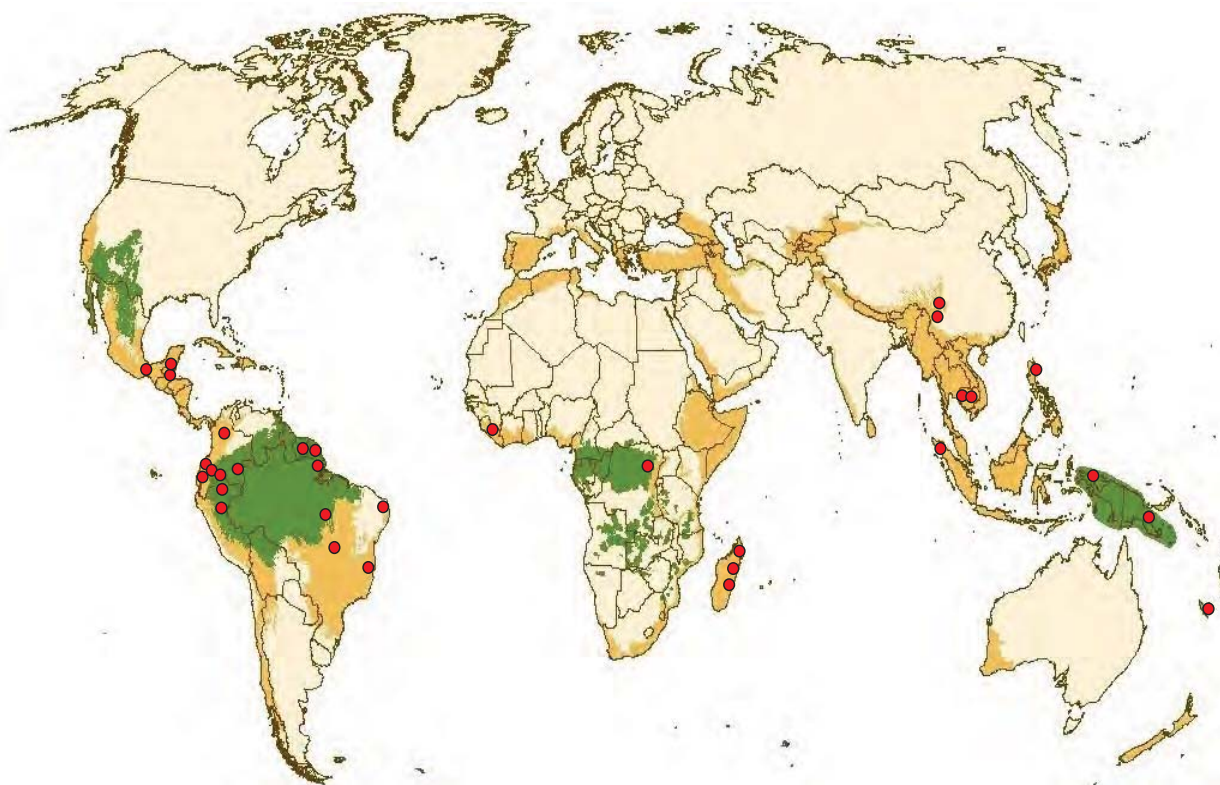
All Rights Reserved by Conservation International

## 高い人口と共にあるホットスポット



Sources:  
Hotspots: Conservation International  
Population Density: LandScan 2002  
Eckert IV Projection  
Central Meridian: 0.00

All Rights Reserved by  
Conservation International



## 1. CIジャパン/CIのCOP17における活動内容

1. 途上国でのREDD+や適応策の実践活動に基づく政策的インプット
  - NGOとしての参加に加え、7名が政府代表団に参加、1名がIUCNの代表団として参加
  - 日本政府との交渉状況にあわせた情報交換、国際・日本NGOとの意見交換等に従事
2. 先住民族グループや他NGOとの連携、支援
3. メディアとの連携によるCOP17の進捗状況を通じた普及、啓発
  - CIジャパン: 交渉を報告するブログの更新、プレスリリースの発信  
[www.conservation.or.jp](http://www.conservation.or.jp)
4. サイドイベントの開催: REDD+や生態系機能を活かした適応策 (Ecosystem Based Adaptation)の先進例、各国大臣や著名人を集めたハイレベルサイドイベントなど、多種多様なイベントの開催、参加
5. サイドイベントへの参加を通じたREDD+の最新情報の収集

## COP17を前にCIが掲げた最低でも合意すべき4つの項目 (2011年11月28日時点)

### 1. 新たな法的枠組みの合意に向けた前進

排出国の積極的なコミットメントが約束されるような、新しい法的枠組みへの道筋をつける。すべての国々が参加する枠組みの構築に向けて交渉を促進させる

### 2. REDD+に関する具体的な決定

各国がREDD+の実施および報告、測定ができるような明確で共通の厳格なルールを決定し、将来に向けより積極的な資金投入に向け一刻も早く動き出せるようにする

### 3. グリーン気候基金運用のガイドライン

カンクン合意で創設が合意されたグリーン気候基金の運用ガイドラインを作成し、基金の将来的な財政計画を打ち出すこと。また、基金の少なくとも50%を「適応」に割り当てること

### 4. 途上国と先進国の代表で構成される適応委員会の設計と設置

国際的に適応に係る活動を支援し、その持続的な活動を可能にするような財政的メカニズムにつながる機能を持つ適応委員会の設置。

CONSERVATION  
INTERNATIONAL   
Japan 



---

## 2. ダーバン合意へのCIの評価

---

## 2. ダーバン合意の主な内容へのCIの見解

### ダーバン合意

- ◆途上国への財政的支援となる「グリーン気候基金」の設立
- ◆2015年までに包括的な気候変動問題への合意、2020年の発効を目指す「ダーバン・プラットフォーム」をまとめるとの最終合意
- ◆温室効果ガスの削減を法的に義務付ける唯一のメカニズムである京都議定書の延長

### CIの見解

- ◆新しい枠組みへの合意は大きなステップではあるが、実質上の将来的な資金や行動が不明確→アクションに結びつく合意ではない
- ◆2020年の着手では、今後気温上昇が2度以上を超える危機的な状況は避けられない
- ◆2015年の合意後、なるべく早い実施を実現すべきである

# REDD+の主な決議事項へのCIの見解

## REDD+に係る主な合意内容

- ◆セーフガードに関する情報提供システムのガイダンスの合意
- ◆森林参照レベル等のモダリティの合意
- ◆REDD+の資金と先進国の支援の枠組みについて、今後検討することを決定
- ◆REDD+の多様な資金源として、公的資金や民間資金、市場アプローチや非市場アプローチの可能性について合意
- ◆実証活動の経験を踏まえ、途上国の取り組み成果を支援するため市場アプローチを検討することを合意
- ◆緩和と適応のための非市場アプローチの開発の可能性について言及

## CIの見解

- ◆市場および非市場に基づく資金源が提供されるという合意は、肯定的なステップ
- ◆実証活動の経験を踏まえた市場アプローチの検討も、早期活動を促すという意味において肯定的な決定内容
- ◆セーフガード情報提供システムの開始時期が不明確であることは生物多様性保全への脅威となり得る
- ◆MRVの合意のCOP18持ち越しは憂慮

## 今後の日本からのREDD+支援の在り方

- ◆UNFCCCの交渉との整合性: セーフガードや参照レベル、MRV等の項目における制度を構築させ、UNFCCCの交渉にインプットをするようなリーダーシップが求められる
- ◆ダブル・アカウンティングの問題への対処: 相手国の制度構築への留意が必要。当途上国におけるレジストリ制度の発足等、能力開発支援等は必須
- ◆プロジェクト・レベルから準国レベル、さらには国家レベルへのREDD+の道筋を視野に入れた支援が必要
- ◆当該国で実績のある政府や実施機関、NGOとの連携構築が急務
- ◆グローバルおよび国境を越えたリーケージへの対応は必須
- ◆森林を豊かに有し森林減少率の低い国(High Forest Low Deforestation, HFLD国)を含む、全途上国によるREDD+の実施へのインセンティブ形成の議論についても積極的に貢献、検討すべき。

## 3. サイドイベントの報告

## 3. サイドイベントの報告

CIによる会期中のサイドイベント(抜粋):

1. 12月2日(金):REDD+のネステッド・アプローチの事例(ペルー、グアテマラ) @OASIS  
- 発表者:CI ペルー, Lucio Pedroni (Carbon Decisions International), ペルー環境省他
2. 12月3日(土):OSIRIS:インドネシアの国家REDD+計画のための政策的経済分析ツール @インドネシア・パビリオン  
- 発表者:Dr. Jonah Busch, DNPI
3. 12月5日(月):ビジネスと適応(南アフリカの知見から) @OASIS  
- 発表者:Chairman of Woolworths, CCO Citigroup, UNFCCC Private Sector Initiative  
- 司会進行:ピーター・セリグマン(CI-CEO)
4. 12月6日(火):生態系サービスへの支払い(PES) @OASIS  
- 発表者:カルロス・マニエル・ロドリゲス(CI 地域担当バイスプレジデント, 元コスタリカ環境大臣)
5. 12月7日(水):ハイレベルREDD+サイドイベント@COP17 @南エランゲニ ホテル  
- キーノート:国連事務総長  
- 発表者:ピーター・セリグマン(CI-CEO)、ノルウェイ環境大臣、インドネシアUKP4トップ、ドイツ環境省プレジデント、RSPOバイスプレジデント、ジェーン・ゴドール博士等

## ペルーのREDD+事例

### プロジェクト・レベルからネスティッド・アプローチによる準国レベルへの展開

## 民間企業とのREDD+レディネス支援例

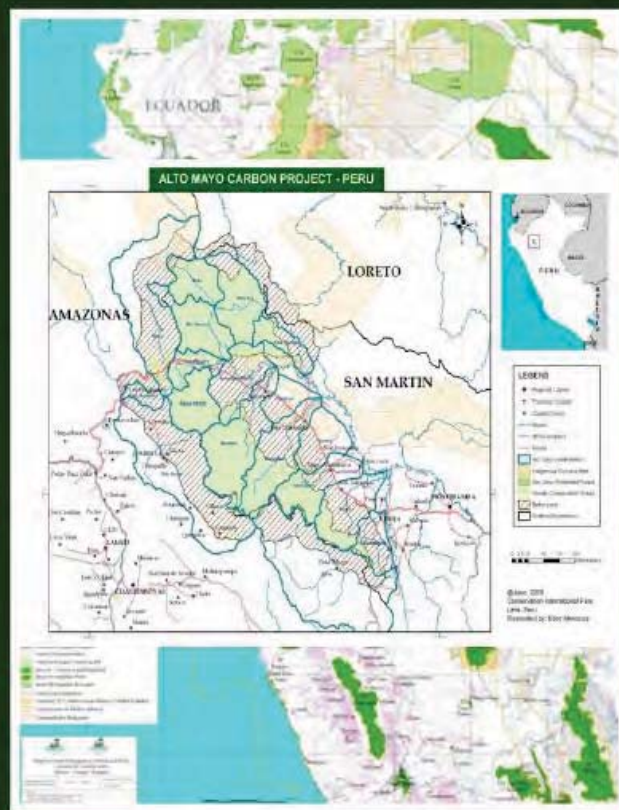


2008年契約	2009年契約
DELL社によるボランタリーなCSR戦略に基づくカーボン・ニュートラル・コミットメント	包括的なCSR戦略の一環として、長期的ゼロ・エミッションを目指す
\$2.75 百万 (5年間)	\$4 百万の初期支援+ \$3百万の継続支援(合計5年間)
・ファンドリアナ・ヴォンドロゾ・プロジェクト(マダガスカル) (240,000 ha)	・アルトマヨ・プロジェクト(ペルー) (321,000 ha) ・ターナ・キンバーイコボプロジェクト(DRC) (337,000 ha)
プロジェクト開発への資金援助	プロジェクト開発への資金援助
VCS/CCB 有効化審査・検証を目指す	VCS/CCB 有効化審査・検証を目指す
削減量: 425,000 tonnes of CO <sub>2</sub> e DELL社名義にて償却予定	削減量: 900,000 tonnes of CO <sub>2</sub> e (VCU's) を ディズニー社名義にて償却予定



# CI Peru's Local Level Initiative: Alto Mayo Protected Forest

- Tropical montane and cloud forests
- Elevation range : 2,600-13,000 feet
- Part of the Peruvian National System of Protected Areas – established in 1987
- 450,000 acres core zone, or 1 million acres including buffer zone
- National protected area with highest deforestation rate in Peru (0.35% /yr)
- Area of important value for the conservation of biodiversity and fresh water resources
- Partnership with Disney Corporation



All Rights Reserved by Conservation International

Reducing deforestation in the Alto Mayo Protected Forest by establishing a REDD+ project

## Project objectives:

- Reduce deforestation and thereby reduce greenhouse gas emissions
  - Emissions will be reduced by 2.8 million tons of CO<sub>2</sub>, over 10 year period
- Conserve the area's biodiversity
- Promote sustainable economic activities

## How are we reducing deforestation?

- Providing technical support for sustainable coffee and agricultural activities
- Improving governance, law enforcement, and capacity of Park Service
- Developing conservation agreements with communities
- Developing a REDD+ project and generating carbon credits



© Photo by: CI

# SUBNATIONAL LEVEL

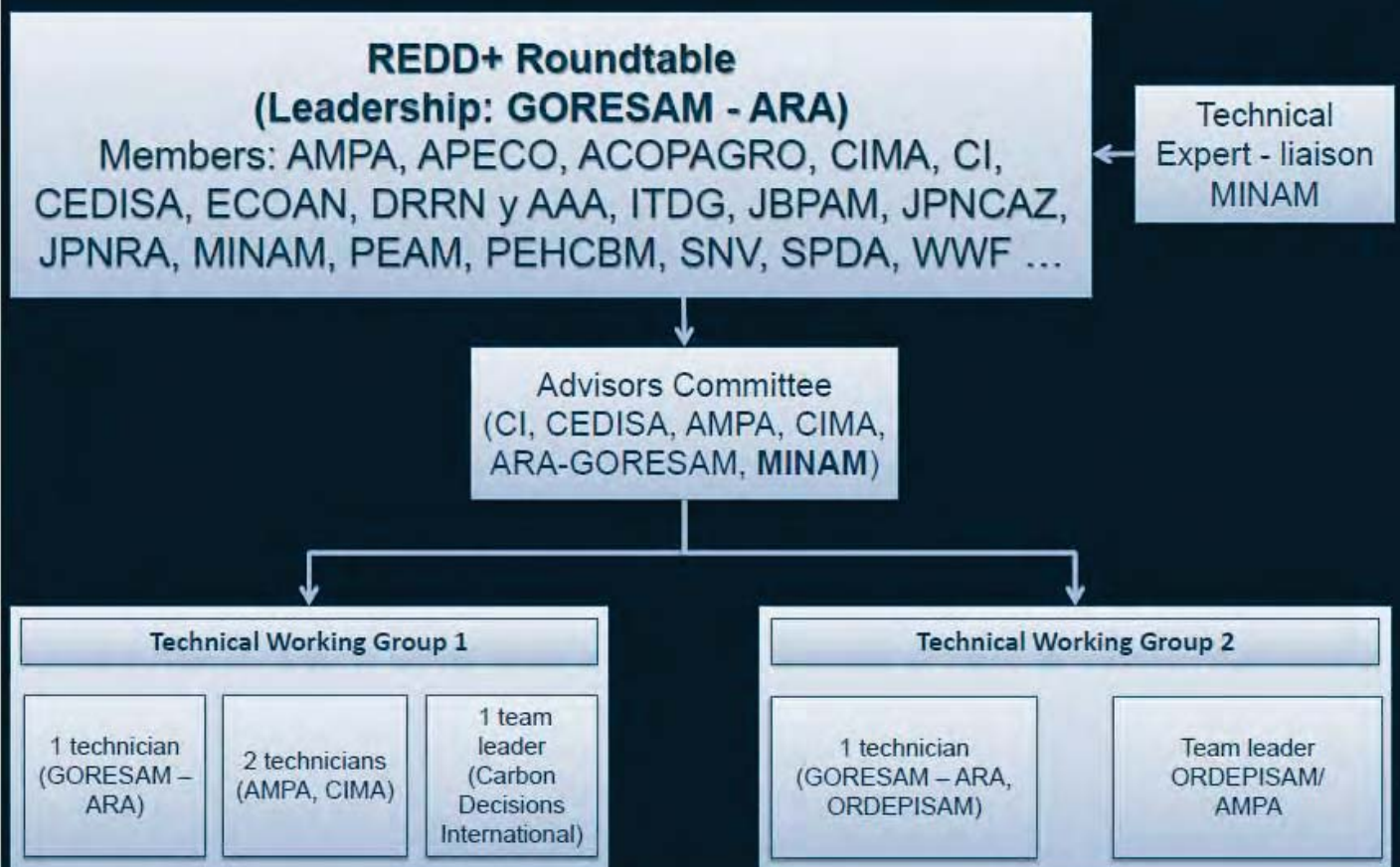
## REDD+ process in San Martin

Develop a REDD + program led by the Regional Government that can inform the design of a national model, including:

- Capacity building
- Deforestation baseline, reference scenario and MRV system
- REDD readiness plan that feeds from local initiatives and local communities
- Support a stakeholder engagement process
- Support the development of consultation process for local communities of the region
- Integrate San Martin REDD+ initiative to the National REDD+ strategy

© Photo by: CI

## ORGANIZATIONAL DIAGRAM OF THE SAN MARTIN REDD+ ROUNDTABLE





© Photo by: CI

## Participatory Processes for Forest Conservation Projects and REDD+

- Support the operationalization of Indigenous Office at the San Martin Regional Government
- Support the creation of a Facilitator School
- Development of Training Materials
  - Dissemination and Communication of Concepts and Tools
  - Building Participatory Knowledge
  - Participatory Planning and Commitments: Theory of Change
  - Approval and Regulation of Regional Level Reference Scenario

## サイドイベント報告②

---

### ハイレベルREDD+サイドイベント @COP17

# ハイレベルREDD+サイドイベント @ COP17



## 民間企業の活動と森林保全

- 企業活動において、森林保全は本業のサプライチェーン及び社会貢献として取り組まれるべき火急の課題
- REDD+を通じて、企業は消費者により分かりやすく森林保全への貢献をアピールすることができる
- CI-スターバックス社による日陰栽培コーヒー、持続可能なパームオイル生産などの先進事例



# アフリカ・COP17開催によるREDD+への貢献



- フィゲレス事務局長は、REDD+を気候変動の緩和、適応に加え、「貧困削減」の手段であると明言
- 「ジェンダー」がREDD+の重要テーマのひとつに。故マータイ氏のアフリカ大陸における偉業が称えられる
- REDD+の交渉文書に「適応策」との連携の重要性が強調される
- 能力向上の重要性が再認識され、柔軟性のある展開が認められる

## CIジャパン:2012年の活動

- リオ+20: 生物多様性条約と気候変動条約の双方において、REDD+を通じた相乗効果の発揮が目指されるべき
- 日本の支援によるベスト・プラクティスとなる実践活動の促進と知見の共有
- ボランタリーベースで始まった活動の準国→ナショナルレベルへの統合
- 日本からの官民NGOパートナーシップの促進
- UNFCCCにおける交渉のスピードアップへの貢献
- 日本におけるREDD+の重要性と認知度の向上

ご清聴ありがとうございました！

[www.conservation.or.jp](http://www.conservation.or.jp) (Japanese)

[www.conservation.org](http://www.conservation.org) (English)



© CI, Photo by Kana Yamashita